

## 編集室

## 心レンズ

「しんれんず」と呼んでいただきたい。心電図のことである。診察しているとおじいさんやおばあさんが、時々噴き出すような勘違いされるので、つい書きとめてしまう。マイスリーをスマイリーと言ったり(かわいい)、どうも話がかみ合わないと思ったら、ケアマネさんのことを山根さんだと思っていたとか。先日もあるおばあさんが眼科で黄斑変性と診断された衝撃をつぶさに語られるのを聞いていて、なんか耳にひっかかるなと思ってよく聞くと、「黄斑変性と診断される」の部分が「おうはんせいができる」となっていた。まあ、内容も含めてそれほど笑う話ではないが、「黄斑」という漢字や「変性」の概念など、この方には全く興味も関係ないことなのだろうと思った。むしろ医者が当たり前と思って使う言葉は、ヘンで伝わってないものが多いのだろう。

たとえば医者紹介状には独特のワードが多発する。去年のこの編集室で「御侍史」について書いたが、こんな敬称、医者以外誰も使わない。「愚考する」とかも、そんなにへりくだらなくても、と思う。まあ、ケインコスギ(権威が濃すぎる\*)の先生も時におられるから仕方がないか。紹介状では相手の先生を立てるのが基本である。「先生のご指摘の如く」という一言は重要だ。自分が紹介した返事にこの一言があるとなんかちょっとホッとす。「今後ともよろしく願います」というのも一見、まったく普通の一言ながら、時に強い念がこもっている場合がある。自分も開業したてで将来が不安であった時のことを思い出す。

素敵な紹介状の例としては大学で習ったY先生が語っておられた話が印象に残っている。小児外科のY先生、先天異常の赤ん坊の執刀をして、その子が大きくなった。遠くに引っ越すことになったので手術の詳細を書いてある権威の先生に送ったところ、帰ってきた返事は真っ白な紙面の真ん中にただ一言「お見事!」。とても嬉しかったと言っておられた。外科の先生はいいなあ。内科と違う。

勘違いの話にもどるが、単なるワード

でなくその表現の背後にある思考様式のずれ違いを意識する必要があるのではないかと思っている。例えば臨床で「様子みる」とよくいうが、これは誤解されやすい「医学用語」と思ったほうがよろしいかと思う。例えば、胸部写真で影が見つかって、悪性かどうか判断つかない場合しばしば、「様子見ましょう」という。しかしその一言は「それほど悪そうでない」「でも念のため再検しよう」「それだけの猶予はありそうだ」そして「いま介入するのは得策でない」などのさまざまな専門知識に基づく考えをめぐらした末の一言である。ところがそれをポツンという「様子みるって?なぜ何もしてくれない?」となる。特に拡大傾向の有無が重要な判断材料であるということが分からないと思う。したがってこのワードを使う場合、「今後こうなった場合はこうしましょう」みたいな一言を加えると理解がだいぶ変わらと思う。

もちょっと深刻なものもあって、例えば手術やインターベンションが必要な人が、大きい病院で説明を受けたあと実は納得しておらず、かかりつけに相談来られる場合がある。「選択肢を提示されて、結局自分で決めえいわれた」「素人なのに自分で決めろといわれても困る」という。つまりこれは、複数の治療法があり、その期待値が同等であるということや、本人がなにを重視するかで方針が変わるという、説明の根幹部分が、まるきり伝わっていないということになる。

なにか説明する場合、前提条件がずれているとまったく伝わらない。医者の説明ではそういうことが起こりやすいのだろう。これは逆に問診で病気の症状を聞きだす時にも、思考様式を相手にあわせないと大事な情報を見逃すということでもある。AIが進歩すると内科診断に医者がいらなくなるとよくいわれるが、AIにできないのは思考様式の違う言葉から症状を抽出することだろう。ちょっと強引だが今後、AI開発で必要になってくるのは、医者と患者の見え方の違いを矯正する「しんれんず」であるかもしれない。

(小園 亮次)

## 広島県医師会速報 2018年(平成30年) 2月15日

- 発行所／一般社団法人 広島県医師会 〒732-0057 広島市東区二葉の里三丁目2番3号 TEL 082-568-1511 FAX 082-568-2112  
広島県医師会HP <http://www.hiroshima.med.or.jp/> E-mail: [kouhou@hiroshima.med.or.jp](mailto:kouhou@hiroshima.med.or.jp)
- 編集者／広島県医師会長 平 松 恵 一  
(広報委員)山中 祐介、小園 亮次、高路 修、隅田 昌之、谷 充理、津田 敏孝、中尾 三和子、  
平尾 健、正岡 良之、吉田 良順、桑原 正雄、小笠原 英敬、水野 正晴、志田原 泰夫
- 印刷所／レタープレス株式会社 〒739-1752 広島市安佐北区上深川町809番地の5 TEL 082-844-7500 FAX 082-844-7800